


照屋 信治 (TERUYA, Shinji)

沖縄キリスト教学院大学 人文学部英語コミュニケーション学科 教授

【プロフィール】

取得学位、 大学・機関、取得年	<p>学士号(文学) 早稲田大学第一文学部史学科日本史学専修卒業、1994年</p> <p>修士号(学校教育学)兵庫教育大学大学院学校教育学専修・領域研究学専攻修了、2003年</p> <p>修士号(教育学)京都大学大学院教育学研究科教育科学専攻修士課程修了、2007年</p> <p>博士号(教育学) 京都大学大学院教育学研究科教育科学専攻博士課程修了、2011年</p>	
専門分野	教育学、歴史学	
研究分野	近現代沖縄教育史、近現代沖縄思想史、近代日本教育史	
研究職歴等	<p>沖縄県立高等学校教諭 1994年—2003年</p> <p>天理大学体育学部非常勤講師 2009年—2010年</p> <p>太成学院大学人文学部非常勤講師 2010年</p> <p>沖縄キリスト教学院大学 人文学部英語コミュニケーション学科 准教授 2011年— 同 教授 2016年—</p>	
担当科目	教職の意義、教育原理、教育の制度、総合教育研究、道德教育の研究、特別活動の研究、教育実習事前事後研究、教育実習、沖縄の歴史と現在、卒業研究	

【研究活動業績】

研究業績 (著書)	<p>『近代沖縄教育と「沖縄人」意識の行方—沖縄県教育会機関誌『琉球教育』『沖縄教育』の研究—』(溪水社、2014、単著)</p> <p>『沖縄の教師像—数量・組織・個体の近代史』(藤澤健一編、榕樹書林、2014、共著)</p> <p>『沖縄で教師をめざす人のために』(上地完治、西本裕輝編、共同出版、2015、共著)</p>
研究業績 (論文など)	<ol style="list-style-type: none"> 「1930年代 沖縄における郷土教育の思想と実践—豊川善暁と「沖縄人」意識の行方—」『沖縄キリスト教学院大学 論集』第9号、2012年、1-12頁 「「沖縄方言論争」と『沖縄教育』誌上の「標準語」教育論—「混用」という可能性—」日本教育史研究会『日本教育史研究』第30号、1-27頁、2011年、38-64頁 「[書評]」後田多敦著『琉球救国運動 抗日の思想と行動』、歴史科学協議会『歴史評論』第736号、2011年、92-96頁 「『沖縄教育』にみる「沖縄人」意識の形成—1910年代の親泊朝擢の言論に着目して—」、歴史学研究会編『歴史学研究』第876号、2011年、1-19頁 「[書評]」屋嘉比収著『〈近代沖縄〉の知識人 島袋全発の軌跡』、琉球大学国際沖縄研究所『国際沖縄研究』第2号、2010年、118-121頁



	<p>6. 「県文化運動の機関」としての『沖縄教育』—1923年から1933年までの誌面分析—、『京都大学大学院教育学研究科紀要』第 56 号、2010 年、293-305 頁</p> <p>7. 「沖縄教育における「文明化」と「大和化」—太田朝敷の「新沖縄」構想を手がかりとして—、日本教育学会『教育学研究』第 76 巻第 1 号、2009 年、1-12 頁</p> <p>8. 「『琉球教育』(一八九五—一九〇六)にみる沖縄教育の原型—新田義尊の沖縄教育論とそれへの対応—、歴史科学協議会『歴史評論』第 683 号、2007 年、74-91 頁</p> <p>9. 「『琉球教育』(1895-1906)にみる沖縄教育の展開—「学術」「教授と訓練」欄の傾向を中心に—、教育史学会『日本の教育史学』第 49 集、2006 年、71-83 頁</p> <p>10. 「生徒の政治参加意識を高める公民教育の研究—沖縄人にとっての日本史の授業の創造—」、藤井徳行氏との共著、兵庫教育大学学校教育研究センター編『学校教育学研究』第 16 巻、2004 年、113-118 頁</p> <p>11. 「『琉球教育』(一八九五—一九〇六)の史料的位置づけ—皇民化概念のとらえ直しをふまえて—、日本法政学会『法政論叢』第 40 巻第 1 号、1-16 頁、2003 年</p>
研究業績 (その他)	<p>1. 第 24 回石川謙賞受賞(日本教育史学会)、2011 年</p> <p>2. 「沖縄における平和教育のあり方—「加害者的視点」の導入「平和の礎」「従軍慰安婦」「霧社事件」、『沖縄をどう教えるか』編集委員会編『沖縄をどう教えるか』解放出版社、2006 年、134-138 頁</p> <p>3. 「「方言札」の授業—沖縄人の主体性を磨き上げるための実践—」、沖縄県高等学校地理歴史科公民科教育研究会編『沖高地歴公民研紀要』第 22 号、2000 年、30-47 頁</p> <p>4. 「沖縄での「被差別部落の授業」の試み—「被差別部落」と「沖縄」とをつなぐ—」、沖縄県高等学校地理歴史科公民科教育研究会編『沖高地歴公民研紀要』第 21 号、1999 年、8-29 頁</p> <p>5. 「沖縄における平和教育の在り方—「加害者的視点」の導入・「平和の礎」・「従軍慰安婦」・「霧社事件」—(沖縄県高等学校地理歴史科公民科教育研究会編『沖高地歴公民研紀要』第 20 号、1998 年、21-32 頁</p> <p>6. 「アイデンティティの問題として—5・15特設授業の実践報告—」沖縄県高等学校社会科教育研究会編『沖高社研紀要』第 18 号、1996 年、36-47 頁</p> <p>7. 「沖縄県における平和教育についての考察—加害者的視点の導入—」沖縄県高等学校社会科教育研究会編『沖高社研紀要』第 17 号、1995 年、45-48 頁</p>
所属学会	教育史学会、日本教育史研究会、日本教育史学会、日本教育学会、歴史科学協議会、歴史学研究会

一言	<p>「深く掘れ、己の胸中の泉、余所たよて水や汲まぬごと」(伊波普猷)</p> <p>大学生のころ、何を学ぼうか、どんなふう生きようか、と思案していた時にでくわした琉歌です。僕にとって啓示となりました。みなさん、学生生活で、その後の人生に繋がる何かを見つけられるといいですね。</p>
----	--